

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年3月31日現在

機関番号：16301

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2010～2012

課題番号：22530551

研究課題名（和文） 過疎地住民の自立・再生活動の課題と支援策

研究課題名（英文） Issues of Residents' Action for Revitalization in Less Favored Area and their support plan

研究代表者

中道 仁美（NAKAMICHI HITOMI）

愛媛大学・農学部・准教授

研究者番号：30254725

研究成果の概要（和文）：

過疎地の地域再生については、活動を起こす・継続する基盤として、住民の意思疎通を図る集会在重視されねばならない。高齢化が進行した限界集落では、集会も開催できず、活性化への取り組みも頓挫する。高齢化した農業の補助労働としての外国人研修生は、今や欠かせないものとなりつつある。外国人研修生の母国での農業教育も重要であり、特に帰国後の研修生支援とともに、彼の地の農業者支援体制の構築が求められる。過疎地では女性起業に期待されているが、女性の起業への住民の理解は十分ではなく、それゆえ、女性起業が十分育成されないなどの課題が残る。

研究成果の概要（英文）：

About rural revitalization for a depopulated area, the residents' meeting where residents communicate each other must be thought as important as a base of activity. In the marginal hamlet where aging advanced, a meeting cannot be held, either but the measure for revitalization activity also suffers a setback. Now, the foreign trainee as auxiliary labor of the aged agriculture is indispensable. The agricultural education in a foreign trainee's mother country is also important, and construction of the farmer support organization in his country is especially required for with the trainee support after a homecoming. Although the female entrepreneur is expected in the depopulated area, an understanding of the residents to a woman entrepreneur is not enough, and, so, the subject of a female entrepreneur not being raised enough remains.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2011年度	1,000,000	300,000	1,300,000
2012年度	1,000,000	300,000	1,300,000
年度			
年度			
総計	3,300,000	990,000	4,290,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：社会学

キーワード：過疎、住民運動、地域再生、国際連携、ベトナム、ジェンダー

1. 研究開始当初の背景

日本全土の約半分が過疎地という深刻な状況下で、高齢化・更なる人口減少は当該地

域の維持を困難にするだけでなく、社会全体の生活・環境問題につながってゆく。ヨーロッパ連合（以下 EU）は、条件不利地域に様々

な地域振興補助金を投下している。地域住民活動の結成・支援を目的とした「LEADER」が主流化し、地域活性化の NPO に発展するものがみられるようになった。わが国でも、地方分権化・財政の効率的利用を目指し、地域活性化を住民に委ねようとする動きがある。

一方、過疎地の人口を男女別にみると、中高年層では男性の比率が高く、過疎地にはジェンダーが「見えない」問題として横たわっている。女性起業は単なる稼得活動として矮小化されがちであるが、女性たちによる社会的起業が地域を支えている例も少なくない。

2. 研究の目的

地域再生に向けた過疎地における住民組織と住民活動のあり方と、これを支援するための課題を究明する。

(1) 日本の過疎地域の住民が、地方自治体の補助金等、資金を獲得して、地域再生を図る活動について調査研究する。

(2) 過疎地の住民が、自らの再生のために始めた途上国支援 NGO を調査研究する。

(3) 過疎地の女性起業を社会的起業という視点から見直す。

3. 研究の方法

研究方法は、徹底した実証主義によるため、実態調査が中心である。

研究対象を①日本の過疎地域の住民が、地方自治体の補助金や独自に資金を獲得して、地域再生を図る活動、②過疎地の住民が、自らの再生のために始めた途上国支援 NGO 活動、③過疎地の社会的起業とみられる女性起業活動の3点に絞っている。

4. 研究成果

過疎地域住民の自主的な活動について、愛媛県西予市明浜町狩江地区、宮之浦地区の2か所で調査した。

西予市では、住民による主体的な活動を促すため、自治会単位で住民への活動資金を出しており、参与観察とともに、アンケート調査を行った。

明浜町では、他の町村と異なり、集会などの住民が集まる機会がほとんどないことがわかっていたので、住民に集会所に集まり、話しあってもらい、参与観察を行った。さまざまな年代や性別の集会が開催され、地域の問題が話し合われた。同時に行った15歳以上全住民に対するアンケート調査では、住民に地域再生への協力意欲が強いことも発見され、再生計画づくりにつながられた。

狩江地区との比較から、宮之浦地区では集会所が多数あるにもかかわらず、住民の意思疎通が十分でないこともわかった。理由は様々考えられるが、ひとつには、狩江地区の秋祭りのような、住民を結びつける機会がほとんどないことがわかった。そのため、宮之浦地区では、そのような機会づくりを今後の活動の一つにするという活動が求められる。

町が過疎地に働き替えるもう一つの事例として、愛媛県松野町で調査を行った。愛媛県松野町の上家地地区においても全戸調査を行ったが、住民のほとんどが高齢者で、どのような活動にも消極的であることがわかり、その対策の難しさが実感された。特に、町の産業誘致にも消極的で、住民のほとんどが高齢化した限界集落では、住民の情報交換の場も非常に限られていることがわかり、リーダーになる人材の確保すら難しい。

一方、狩江地区にある有機農業集団「無茶々園」の元代表が、途上国を発展における環境汚染から解放し、有機農産物づくりを推進することで途上国の農業発展をもとめた活動をベトナムの現地で調査した。彼らは、ベトナム人の若者に現地で日本語を教え、日本の技術研修制度を利用して日本の農家に派遣し、帰国したものを現地農場で雇用するという一連のシステムをようやく完成させた。しかし、依然として問題は山積している。ベトナムから日本に派遣された元研修生と日本の研修生受け入れ農家へのインタビューをおこない、研修制度の課題について考察した。日本での滞在、日本語の習得を目的にした者が多く、農業を学ぼうとする者は多くはなかった。日本で農業技術を学んでも、帰国後働く場所がなく、無茶々園の有機農業学校や、学校の元教師により創設された有機農場で働く希望者の多いこともわかった。

一方、受け入れ農家は高齢化している中で、研修生の手を借りて農業を継続しており、日本農業の高齢化と研修制度のつながりの一端が見えた。

しかし、彼我の社会システムの相違、文化・慣習の相違、経済格差・嫁不足と外国人花嫁問題のジェンダーなど、様々な課題も見えてきた。

女性の社会的企業では、過疎山村の女性起業、農業だけでなく、林業における女性起業の調査を行った。林業における女性起業はまだ少ないが、林業不振の中で、林業振興、地域振興という社会的目的を持って活動する女性によりやく視点が当てられ始めたという程度で、まだまだ、理解されていない。特に、グループ活動が衰退しており、活動の見直しが必要である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計2件)

1. Nakamichi H., “International Support for Organic Agriculture by a Grassroots Farmers’ Group”, *XII World Congress of Rural Sociology*, <http://www.chil.org/rural/group/irsa2012/documents?page=4>, 査読有, 2012年, No.41

2. Hitomi Nakamichi, *Rural Revitalization Issues in Japanese Less-Favored Areas:*

Case Studies of Elderly Farmers in Rural Communities of Shikoku, in *Asian Rural Sociology* 4, The Multidimensionality of Economy, Energy and Environmental Crises and their Implications for Rural Livelihoods, (volume 2) by Lutgarda L. Tolentino, Leila D. Landicho, Surichai Wun'Gaeo, and Koichi Ikegami, the College of Agriculture, University of the Philippines Los Baños, College, Laguna, Philippines, 2010, 査読有, pp239-251

[学会発表] (計5件)

1. 中道仁美「過疎地農業者の国際化活動 - ベトナム有機農業学校設立をめぐる」日本村落研究学会大会, 智頭町旧山郷小学校(鳥取), 2012年10月27日
2. Nakamichi H., "International Support for Organic Agriculture by a Grassroots Farmers' Group", *XII World Congress of Rural Sociology*, ISOSP, Lisbon, Portugal, 2012年7月31日
3. 中道仁美「農村女性問題再考」, 日本村落研究学会東海・関西・中四国研究会, キャンパスプラザ京都6階第8講習室, 2011年9月4日
4. 中道仁美「過疎地農業者による国際支援の課題」, 第59回北海道社会学会大会, 天使大学(札幌), 2011年6月4日
5. Hitomi Nakamichi, *Rural Revitalization Issues in Japanese Less-Favored Areas: Case Studies of Elderly Farmers in Rural Communities of Shikoku*, *Asian Rural Sociology* 4th International Conference, Bicol University, Legaspi, Philippines, September 7-10, 2010

[図書] (計3件)

1. 中道仁美「ジェンダー研究の動向」, 日本村落研究学会編『年報 村落社会研究』48号, 査読有, 農文協, pp.276-287, 2012年
2. 中道仁美, 「いえとむらの歴史と現在 - 住民によるむらの再生方向」大隈満, 大田伊久雄, 竹ノ内徳人, 松岡淳編著『ゼミナール農林水産業が未来をひらく』農山漁村文化協会, 2011年, pp63-70
3. Hitomi Nakamichi, *The Development of Alternative Production and Consumption Activities Related to Food Safety and Security and Associated Gender Issues, From Community to Consumption*, 査読有, 2010年, pp31-44, Emerald Group Publishing Limited.,

[その他]

(業界雑誌論文, 2件)

1. 中道仁美「農業分野における高齢化の進行と女性政策」『畜産コンサルタント』第49巻第1号(第577号), 10-13, 2013年1月1日

2. 中道仁美「農村を元気にするカギは女性の社会的起業」, AFCフォーラム第59巻第9号, 7-10, 2011年12月
(新聞コラム掲載, 4件)

1. 中道仁美「女性起業と商品開発」(ズバリ直言), 農業共済新聞2012年11月7日号, 1面

2. 中道仁美「女性が活躍する大型産直市」(ズバリ直言), 農業共済新聞2012年7月4日号, 1面

3. 中道仁美「農業経営補償制度を考える」(ズバリ直言), 農業共済新聞2012年5月2日号, 1面

4. 中道仁美「女性たちの活動支援を」(ズバリ直言), 農業共済新聞2012年3月7日号, 1面

(団体報, 1件)

1. 中道仁美「ベトナムとの交流事業・農業者の国際連帯をめざして」『天歩』110号(無茶々園), 2010年7月

(講演, 11件)

1. 中道仁美「商品開発のポイントを考えよう」, 日浦公民館, 2012年11月27日

2. 中道仁美「商品開発のポイントを考えよう」, 林業センター, 2012年11月15日

3. 中道仁美「商品開発のポイントを考えよう」, ふくさの森, 2012年11月6日

4. 中道仁美「商品開発のポイントを考えよう」, 伯方開発総合センター, 2012年11月23日

5. 中道仁美「商品開発のポイントを考えよう」, 内子町東公民館, 2012年10月18日

6. 中道仁美「地域を元気にする女性の社会的起業」, 松山流域森林組合, 2011年12月5日

7. 中道仁美「地域を元気にする女性の社会的起業」, 内子町森林組合, 2011年11月28日

8. 中道仁美「地域を元気にする女性の社会的起業」, 伯方開発総合センター, 2011年11月24日

9. 中道仁美「地域を元気にする女性の社会的起業」, 松山流域森林組合, 2011年11月21日

10. 中道仁美「女性からみる日本の林業と山村」, 伯方開発総合センター, 2011年6月8日

11. 中道仁美、「日本の農家によるベトナムと日本の交流事業」(地球市民講座2010), 東京都千代田区役所, 2010年11月24日

(国際フォーラム報告, 1件)

1. Hitomi Nakamichi, *Present Status and Issues of Japanese Women in Fisheries*,

CSW55 Parallel Events 28 February - 4
March 2011, United Nations Conference
Room B, 28 February 2011

6. 研究組織

(1) 研究代表者

中道 仁美 (Nakamichi Hitomi)

愛媛大学・農学部・准教授

研究者番号：

30254725